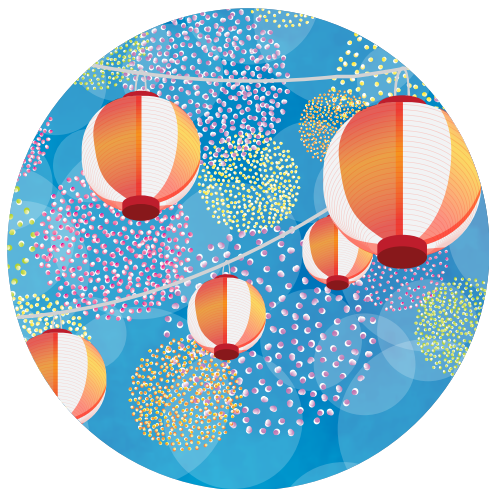




## 目次

- |          |              |
|----------|--------------|
| ① 支部通常総会 | ④ 部会活動報告     |
| ② 行政ニュース | ⑤ 各部会行事予定    |
| ③ トピックス  | ⑥ 事務局からのお知らせ |
|          | ⑦ 会員名簿       |

『JCMA中部支部ニュース 第45号』については、  
(一社)日本建設機械施工協会中部支部公式ホームページより  
フルカラーバージョンがご覧いただけます。

[https://www.jcma-c.jp/shibu\\_koho/shibu\\_news.html](https://www.jcma-c.jp/shibu_koho/shibu_news.html)



中部支部ニュース

支部通常総会

## 第15回 支部通常総会



一般社団法人 日本建設機械施工協会中部支部第15回(名称変更前から通算すると第69回目)通常総会は、5月14日(木)、名古屋ガーデンパレス 3F 栄・泉の間に於いて団体会員139社のうち、139社(うち委任状57社)の出席のもと開催されました。

最初に浅野和広支部長の挨拶で始まり、その後、浅野支部長が議長として議事を進行し、以下の議案について承認可決され、その後、本部表彰規程による会長表彰、令和8年度建設機械優良技術員表彰が行われました。各表彰者は2.本部表彰規程による表彰及び3.令和8年度建設機械優良技術員表彰のとおりです。

その後、講演会に移り「道路局の技術行政について～バズっているテクノロジーの自分事化に向けて～」について国土交通省 道路局 国道・技術課 道路技術調整官 近藤 弘嗣氏より、ご講演を行って頂きました。



講演会

## 1. 議題

### 【決議事項】

- 第1号議案 令和7年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 令和7年度 決算報告承認の件
- 第3号議案 1)任期満了に伴う運営委員会選任に関する件

### 【報告事項】

- 第3号議案 2)運営委員会の報告に関する件
- 第4号議案 令和8年度 事業計画に関する件
- 第5号議案 令和8年度 収支予算に関する件

## 2. 本部表彰規程による表彰

### 1) 支部団体会員

- (会員期間60年)2社 大成建設(株)  
日本キャタピラー合同会社
- (会員期間50年) (該当なし)
- (会員期間40年)2社 (株)野田クレーン  
日本工営都市空間株式会社  
(玉野総合コンサルタントから継承)
- (会員期間30年) (該当なし)
- (会員期間20年) (該当なし)

### 2) 永年役員

- (該当なし)



〈60年表彰〉



〈40年表彰〉

## 3. 令和8年度 建設機械優良技術員表彰

### (運転部門)2名

- 大有建設(株) 野口 凌 様
- 高田建設(株) 伊藤 賢司朗 様

### (整備部門)2名

- マルマテクニカ(株)名古屋事業所 小笹 勝矢 様
- (株)丸建サービス 伊藤 三夫 様

### (管理部門)

- (該当なし)



〈優良建設機械運転員表彰〉



〈優良建設機械整備員表彰〉

# 中部地方整備局におけるインフラDXの取り組みについて

国土交通省中部地方整備局 中部インフラDX推進室

## 1. はじめに

近年、人口減少や高齢化の進展により、インフラの整備・維持管理を取り巻く環境は大きく変化しています。特に地方においては、限られた担い手でインフラサービスを維持し続けることが喫緊の課題となっています。建設産業においても、技能労働者の高齢化や人手不足が深刻化する中、生産性の向上と安全確保を両立した持続可能な建設現場の運営が強く求められています。

こうした課題を克服する鍵となるのが、デジタル技術とデータを活用して業務プロセスそのものを変革する「インフラ分野のDX」(以降、「インフラDX」という)です。インフラDXは、建設生産プロセス全体の効率化・高度化を図るとともに、現場の安全性向上と働き方改革を実現し、将来にわたり持続可能なインフラサービスの提供を目指す取り組みです。

本稿では、中部地方整備局におけるインフラDXの取り組みについて紹介します。

## 2. インフラDX推進体制

中部地方整備局では、これまでも、ICT建設機械や無人航空機(UAV)等を活用したICT施工や、設計・施工におけるデジタル技術の積極的な活用など、i-Constructionを積極的に推進してきました。これらを個別施策にとどめることなく、戦略的に展開するため、令和4年1月に「中部地方整備局インフラDX推進本部」を設置し、今後おおむね5年間の具体的な取り組みを示す「中部インフラDX行動計画」を策定・公表しています。(図1)

これにより、各部局が共通の方向性のもとで施策を展開し、DXの効果を着実に発現させる体制を整えています。



図1 中部インフラDX行動計画(抜粋)



### 3. i-Construction2.0の推進

インフラDXの中核を担う取り組みとして推進されてきたのが「i-Construction」です。ICTや3次元データの活用により、従来の建設現場が抱えてきた人手不足や作業の非効率、安全確保といった課題を克服し、建設生産プロセス全体の高度化と生産性の飛躍的な向上に大きく寄与してきました。

このi-Constructionは現在、「i-Construction2.0」へと進化し、データとデジタル技術を基盤としたさらなる自動化・高度化を目指す段階に入っています。その中核となるのが、以下の「3つのオートメーション」です。

#### (1) 施工のオートメーション化

ICT建設機械の導入や遠隔施工・自動施工技術を活用することで、熟練技術者に依存していた作業の標準化が進み、少人数でも安全かつ効率的な施工が可能となります。また、危険箇所への立ち入りを減らすことができるため、安全性の向上にも大きく寄与します。

新丸山ダム工事事務所では、自律型コンクリート打設システムの構築に向けた実証実験を実施しており、骨材製造から運搬、打設に至る一連の工程を集中管理することで、施工の省力化と品質の安定化、さらには現場作業員の負担軽減と安全性の向上を図っています。(図2)

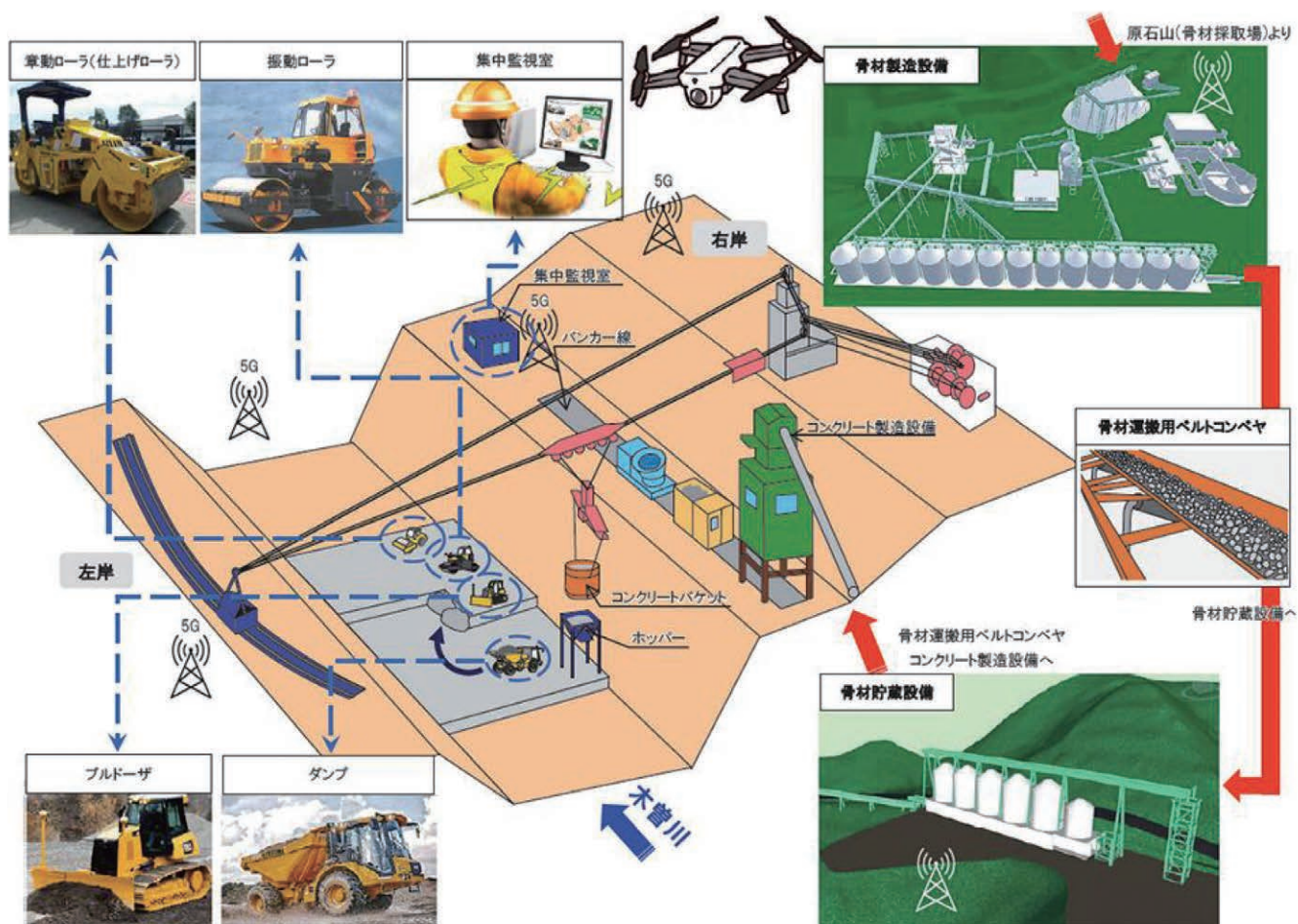


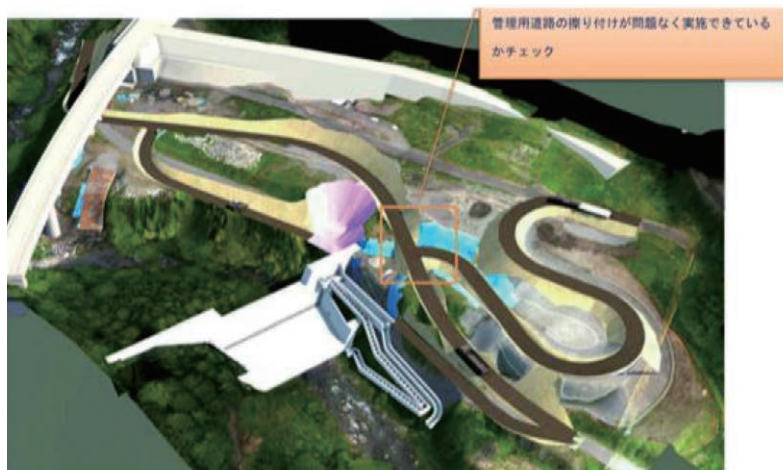
図2 自律型コンクリート打設システムのイメージ(新丸山ダム工事事務所)



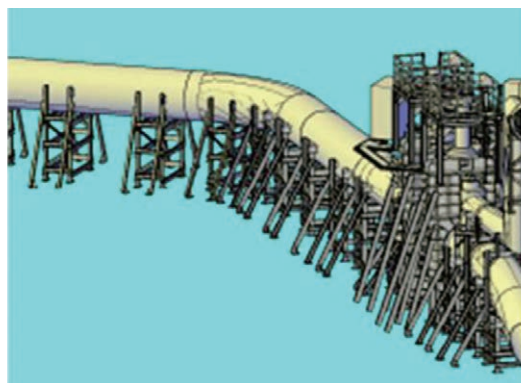
## (2)データ連携のオートメーション化

BIM/CIMやデジタルツインの活用により、設計・施工・維持管理の各段階において3次元データを一体的に蓄積・活用することが可能となります。これにより、従来は分断されがちであった工程間の情報共有が円滑化され、手戻りの削減や意思決定の迅速化につながります。

設楽ダム工事事務所では、ダム本体および関連施設の3次元モデルを構築し、関係者間での視覚的に分かりやすい情報共有や合意形成に活用しています。さらに、事業説明においても3次元データを活用することで、地域住民等への理解促進にも寄与しており、プロジェクト全体の透明性と高度化を実現しています。(図3)



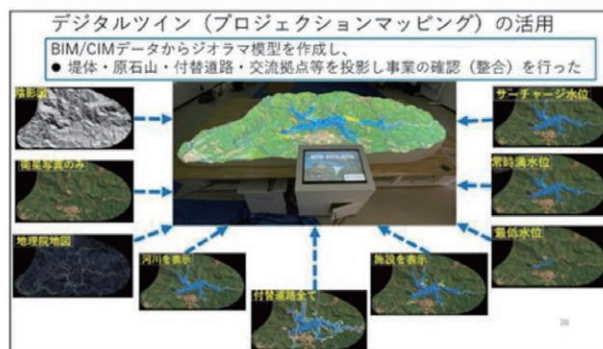
①設計照査(関連構造物との干渉確認)



②統合CIMモデルの作成(左:付替道路、右:低水放流管)



③BIM/CIMモデルの活用(見える化)



④プロジェクトマッピングの活用(広報)

図3 設楽ダム工事事務所におけるBIM/CIMの活用

### (3) 施工管理のオートメーション化

監督・検査業務のデジタル化・リモート化により、現場と事務所をシームレスにつなぐ施工管理体制の構築が進められています。これにより、移動時間の削減や立会いの省力化が図られるとともに、リアルタイムでの状況把握や迅速な意思決定が可能となります。

また、各種データをクラウド等で一元管理することにより、記録の自動化や情報の蓄積・再利用が容易となり、施工管理の効率化と品質確保の両立が実現します。今後はAI等の活用も見据え、より高度で持続可能な施工管理への展開が期待されています。

## 4. 中部インフラDXセンター

中部インフラDXセンターは、令和3年5月に中部技術事務所(名古屋市東区)内に設置されたインフラ分野のDX推進拠点です。

本センターは、社会資本・公共サービス・働き方改革を目的として、DX人材の育成と最新技術の普及を担っています。施設は「体験エリア」と「研修エリア」の2つで構成されています。

1階の体験エリアでは、AR(拡張現実)・VR(仮想現実)・3次元設計技術・遠隔操作技術など、インフラDXに関する最先端の技術を実際に見て触れて体験することができます。埋設物を現地の風景に重ねて表示するAR体験や、3次元データ空間に入り込むVR体験などを通じて、設計・施工・安全対策の高度化を体感できます。2階の研修エリアでは、大型モニターや3次元設計ソフトを備えた環境のもとで、インフラDXに関する研修や遠隔臨場の体験が可能です。現地と会議室を通信で結び、ウェアラブルカメラを用いた遠隔確認など、実務を想定した活用方法を学ぶことができます。

さらに、DXに取り組む企業の最新技術を紹介する展示ブースも設けられており、官民連携による技術革新の推進にも寄与しています。

現在は週4日(火曜～金曜、10時～16時)開館しており、予約により見学・体験が可能です。インフラ分野におけるDXの理解促進と人材育成を支える拠点として、多くの関係者に活用されています。(図4)



中部インフラ **DXセンター** 中部技術事務所

中部インフラDXセンターの見学および講習の案内は、HPに掲載しています。  
([https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/dx/infrastructure\\_dx.html](https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/dx/infrastructure_dx.html))



**1階 体験エリア**

◆遠隔臨場体験



現地と離れた会議室を通信で結び、ウェアラブルカメラを用いた、会議や検査を想定した体験

◆遠隔操作技術の紹介



危険な場所など離れた安全な場所から、遠隔で建設機械を操作する技術を紹介しています。

**2階 研修エリア**



◆3次元設計技術の紹介



3次元の設計ソフトが使えるPCがあり、3次元設計データを触る体験や活用事例の紹介をしています。

◆AR(拡張現実)体験



現地で簡単に図面などのデータ確認ができる体験として、埋設物が風景と重ね合わせて表示される端末の体験ができます。

◆VR(仮想現実)体験



3次元設計データで作られた空間へ入る体験ができます。完成イメージや不可視部分の確認、安全対策の検討などの体験ができます。

◆インフラDX研修



3次元の設計ソフトが使えるPCや大型モニター、スクリーンのある研修スペースです。

図4 中部インフラDXセンターの概要

6



## 5. 人材養成研修の実施(インフラDX 研修・講習)

インフラDXやBIM/CIMの取り組みを支えるためには、これらに対応できる人材の育成が不可欠です。中部地方整備局では「中部インフラDXセンター」において、建設分野に携わる技術者および地方公共団体職員を対象とした「人材養成研修」を実施しています。(図5)

本研修は、BIM/CIMおよびICTの活用促進を目的として、3次元設計データの作成・納品に関する基礎的な知識・技術の習得を目指すものです。あわせて、BIM/CIMへの理解を深め、その普及を図ることも重要な目的としています。

本研修は受講者が自らパソコンを操作するハンズオン形式で実施されるため、座学にとどまらず、実務において即戦力となる技術の習得が期待できます。



図5 研修実施状況

## 6. 中部DX大賞の実施

中部地方整備局では、インフラ分野DXのさらなる推進を目的として「中部DX大賞」を実施しています。本制度は、同局管内においてインフラ分野のDXに関する優れた取り組みを表彰し、その成果を広く共有することで、地域全体におけるDXの普及・加速を図るものです。本大賞は令和3年度に創設され、建設工事や建設コンサルタント業務にとどまらず、自治体の施策や働き方改革なども含めた幅広い分野を対象としています。評価にあたっては「有効性」「先進性」「波及性」などの観点を重視しており、令和7年度においては、工事12件、業務8件、自治体等4件の計24件が選定されています。(図6)

また、本表彰の受賞は実務面での評価にも直結しており、中部地方整備局が発注する工事や建設コンサルタント業務において、総合評価落札方式の評価項目として加点対象となっています。



図6 中部DX大賞表彰式

## 7. インフラDX知恵袋について

中部地方整備局では、同局管内事務所で契約中の工事・業務委託企業などから収集した現場や社内での工夫・改善事例を『インフラDX知恵袋』としてホームページに公表しています。大規模な先進技術の導入に限らず、日常業務の中で生まれた身近で実践しやすい事例を広く公開することで、インフラDXをより身近に感じてもらうことを目的としています。日常的な小さな改善や現場発の工夫を業界全体で共有し、互いに学び合える環境の構築を目指しています。

サイトでは「活用場面」（測量・計測、解析・統計など）、「技術」（3次元測量、BIM/CIM 活用など）、「業種」（建設コンサルタント、建設会社など）の項目ごとに絞り込んで事例を検索できます。

今後も継続的に事例を収集・更新し、誰もが参照できるヒント集として充実を図るとともに、発信方法の拡充を通じて建設業界における生産性向上と働きやすい環境づくりに貢献していきます。（図7）



図7 インフラDX知恵袋

## 8. おわりに

インフラDXが目指すのは、建設分野の働く環境を改善することだけではありません。この国に暮らすあらゆる人々の日々の生活を、より安全安心に、そしてより豊かで実りあるものにしていくことです。少子高齢化や担い手不足といった構造的な課題が深刻化する中、デジタル技術の活用は持続可能なインフラサービスを守るための必要不可欠な手段となっています。

中部地方整備局は、デジタルの力でインフラの未来を支え続けて参ります。引き続き皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 令和8年度 天竜川下流連合総合水防演習 地域を守る知恵と技 明日へと繋ぐ確かな備え

国土交通省中部地方整備局 河川部水災害対策センター

### 【令和8年度天竜川下流連合総合水防演習】

国土交通省では、毎年5月を「水防月間」と定め、気候変動の影響により激甚化・頻発化する自然災害に対応するため、あらゆる関係者が協働して流域全体で治水対策に取り組む「流域治水」を推進しています。その取組の一つとして、国、都道府県、水防管理団体(市町村等)が連携し、各地域において、水防団による水防活動の実践訓練や避難訓練、情報伝達訓練等を組み合わせた「総合水防演習」を実施しています。今年度は、「令和8年度天竜川下流連合総合水防演習」として、令和8年5月31日に静岡県浜松市中央区豊町地先(天竜川右岸かささぎ大橋上流河川敷)で開催しました。なお、天竜川下流域での総合水防演習の開催は、平成元年以来37年ぶりとなりました。

今回の演習では、洪水被害の発生を想定し、「水防活動」と「堤防決壊時の緊急対応」に重点を置き、一連の水防活動及び災害復旧活動における関係機関の役割分担や相互連携を意識した実践的な訓練を実施しました。

本演習には、天竜川下流域の水防団及び消防団をはじめ、国、県、市町の防災関係機関、地域住民、民間協力団体、地元の大学生・高校生など多様な主体が参加しました。参加機関数は26機関で、見学者を含め約1,300人が参集する大規模な演習となりました。



名誉総裁(酒井国土交通副大臣)



令和8年度天竜川下流連合総合水防演習(演習状況)

### 【TEC-FORCE の増強と多様な主体との連携強化】

令和7年6月4日の「災害対策基本法等の一部を改正する法律」の公布・一部施行を受け、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の増強と、行政機関、民間企業、学識者など専門性を有する多様な主体との更なる連携強化により、被災自治体への新たな応援体制が構築されました。また、TEC-FORCEは平成20年の発足以来、東日本大震災や平成30年7月豪雨(西日本豪雨)など、様々な災害における現場対応を積み重ね、そこで蓄積した知見を次なる災害対応に活かすことで、着実に災害対応力を向上させてきました。



令和6年能登半島地震等の経験も踏まえ、気候変動により激甚化・頻発化する水災害や、発生が懸念される南海トラフ地震等の大規模広域災害に対応するためには、現在の災害対応力を格段に引き上げることが必要とされています。このため、近年国土交通省の持つ現場力・総合力を活かした被災自治体への応援強化に向け、TEC-FORCEの増強と、行政機関、民間企業、学識者など専門性を有する多様な主体との更なる連携強化による新たな応援体制の構築が進められています。

本演習では、地元水防団及び消防団等による実践的な水防工法の実演をはじめ、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による被災状況調査に加え、災害対策基本法等の一部改正を受けて創設されたTEC-FORCE予備隊員、TEC-FORCEパートナー、TEC-FORCEアドバイザーのうち、TEC-FORCE予備隊員制度を踏まえた被災状況調査訓練やTEC-FORCEパートナーによる堤防荒締切訓練を初めて演習に取り入れました。

### 【TEC-FORCEパートナーの取り組み】

演習において、通信回線が不通で、かつ被災箇所への進入が困難な状況を想定し、衛星通信を介して被災映像を災害対策本部へリアルタイムに伝送する訓練を実施しました。TEC-FORCEパートナーである日本建設機械施工協会のハイブリッド・ドローンと、中部地方整備局が保有するCar-SAT（移動型衛星通信車）を連携させた被災状況調査を行い、衛星通信によるリアルタイム映像伝送の有効性を確認しました。

ハイブリッド・ドローンは、バッテリーと発電用エンジンを組み合わせた方式を採用しており、長時間飛行が可能であることから、広範囲の被災状況調査や長時間の監視に適しています。また、道路寸断等により人が立ち入れない箇所の状況把握にも有効です。さらに、当日はハイブリッド・ドローンに水面下まで計測可能なグリーンレーザースキャナを搭載し、陸域と水中部を同時に計測することで詳細な3次元モデルを生成し、災害状況の把握に活用できることを確認しました。

また、堤防決壊箇所において、二次災害を考慮した仮締切堤の構築を想定し、TEC-FORCEパートナーである浜松建設業協会及び全国土木コンクリートブロック協会並びに国土交通省が保有する無人化施工バックホウを活用した応急復旧訓練を実施しました。この訓練では、中部地方整備局と災害協定を締結している浜松建設業協会が、安全な場所



水防工法(木流し工)



水防工法(釜築工)



ハイブリッド・ドローンによる被災状況調査  
(日本建設機械施工協会)



無人化施工バックホウによる仮締切(浜松建設業協会)



から無人化施工バックホウを遠隔操作し、堤防仮締切を施工しました。無人化施工バックホウは、地盤が不安定な箇所や浸水区域など、作業員が立ち入ることが危険な現場でも施工が可能であり、二次災害の防止と作業員の安全確保に有効な技術であることを確認しました。

なお、本訓練ではNETIS登録技術であるコンクリートキャンバスを用いた仮締切も実施しました。コンクリートキャンバスは、堤体表面に敷設して散水するだけで硬化し、高い耐久性と止水性を確保できる技術です。従来のコンクリート施工と比べて短期間かつ少人数で施工できることから、水防活動や応急復旧作業の省力化・効率化が期待されます。

今回の演習を通じて、ハイブリッド・ドローンによる迅速な情報収集と、無人化施工バックホウによる安全な応急復旧を組み合わせることで、被災直後から復旧初動期までの災害対応力向上に有効であることが確認されました。

### 【展示ブースによる水防技術の啓発活動】

本水防演習とあわせて、日頃から防災技術の開発や普及に取り組む民間協力団体等による展示ブースを設け、水防・防災に関する技術や情報を発信しました。災害対策に関連する機器や車両の展示、デモンストレーションを通じて、来場者の防災意識の向上と災害対策に関する啓発を図りました。

日本建設機械施工協会にもご協力をいただき、本演習で活用したハイブリッド・ドローンの実機展示を行うとともに、大規模災害により電力や上下水道が途絶した状況下においても活用可能な「水洗トイレ付ソーラーシステムハウス」及び「ソーラーシステムパイオトイレ」を展示しました。これらは太陽光発電と蓄電設備を活用することで、商用電源がない環境でも利用が可能であるため、平常時には仮設事務所や休憩施設として、災害時には避難場所や活動拠点として活用可能な技術であり、その有用性や地域防災への貢献が評価され、令和5年度日本建設機械施工大賞の地域賞部門において優秀賞を受賞しています。

### 【多様な連携による水防体制】

国土交通省では、気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化に備えるため、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を強力に推進しています。被害を最小限に抑えるためには、河川整備等のハード対策に加え、それと両輪をなす水防活動の充実・強化がますます重要となっています。

本演習を契機として、関係機関の連携強化や水防技術の向上が図られ、水防体制が一層充実・強化されるとともに、大規模洪水に対して強靱な備えを有する地域社会の実現につながることを期待するところです。結びに、本演習の実施に当たり、多大なご協力をいただきました一般社団法人日本建設機械施工協会をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



コンクリートキャンバスを用いた仮締切（浜松建設業協会）



国交副大臣、知事、国会議員などによる激励



酒井国土交通副大臣、鈴木静岡県知事による  
日本建設機械施工協会ブース見学



水洗トイレ付ソーラーシステムハウス（日本建設機械施工協会）



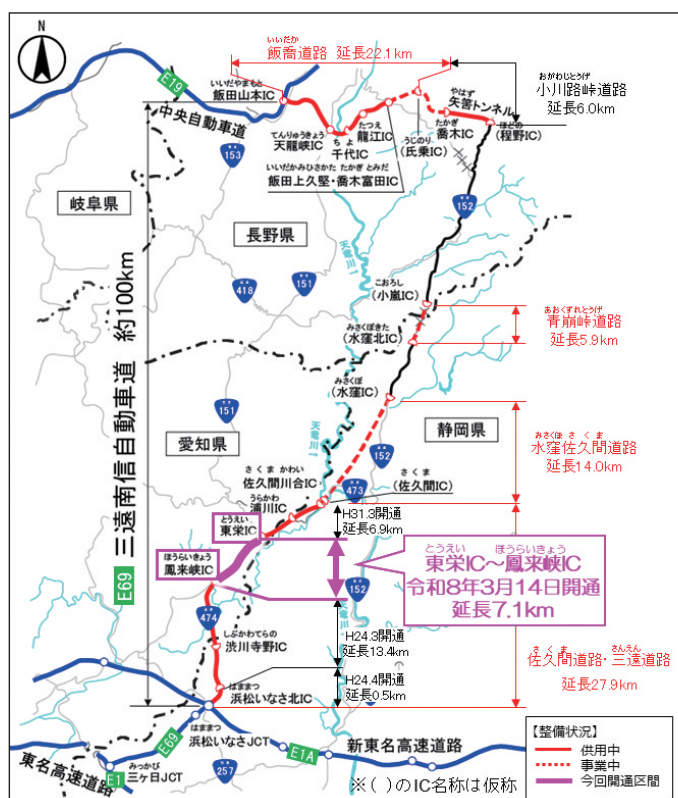
# 国道474号 三遠南信自動車道(東栄IC～鳳来峡IC)開通

国土交通省中部地方整備局 浜松河川国道事務所

## 1. はじめに

国道474号三遠南信自動車道は、長野県飯田市の中央自動車道・飯田山本ICから、静岡県浜松市の新東名高速道路・浜松いなさJCTに至る、延長約100kmの高規格道路です。本自動車道は、新東名高速道路と中央自動車道をつなぎ、広域ネットワークを構築するとともに、災害に強い道路機能の確保、地域活性化の支援、救急医療活動の支援を目的に計画された道路です。

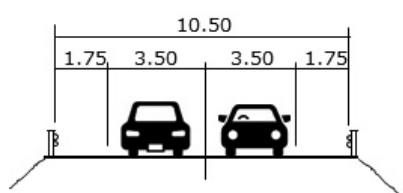
令和8年3月14日に東栄IC～鳳来峡IC間(延長7.1km)が開通し、佐久間道路・三遠道路(延長27.9km)が全線開通となりました。この開通により、長野県、浜松市が整備を進めている現道改良区間を含め、約7割の開通となりました。



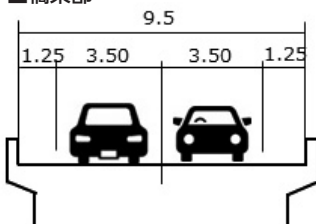
三遠南信自動車道位置図



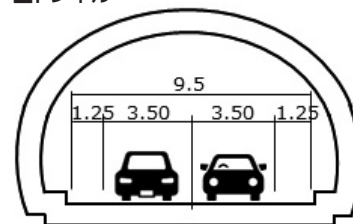
### ■土工部



### ■橋梁部



### ■トンネル



標準断面図



## 2. 整備効果

### (1) 開通後の交通状況

佐久間道路・三遠道路は平成5年度に事業化して以降、平成24年3月に鳳来峡IC～浜松いなさ北IC、平成24年4月に浜松いなさ北IC～浜松いなさJCT、平成31年3月に佐久間川合IC～東栄IC、そして令和8年3月14日に東栄IC～鳳来峡ICと段階的に整備を進め、順次開通してきました。

今回区間が開通したことにより、開通区間の昼間12h交通量は平日で約2,900台、休日は約3,900台の利用がありました。また、開通前後区間（東栄以北・鳳来峡以南）の休日交通量は、開通前より約5～6割増加しており、奥三河や佐久間方面から高速道路へのアクセス性が向上したことにより、観光や産業利用など、三遠南信地域の活性化が期待されます。

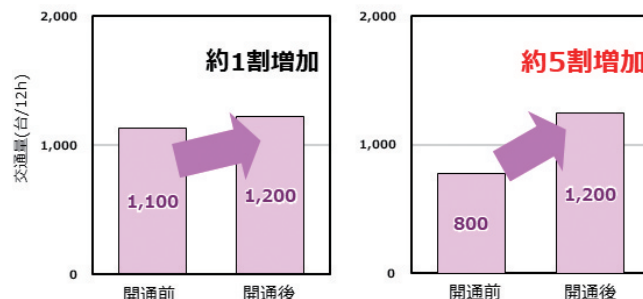


位置図

#### ■ A地点（三遠南信 東栄IC以北）

【12時間合計（平日）】

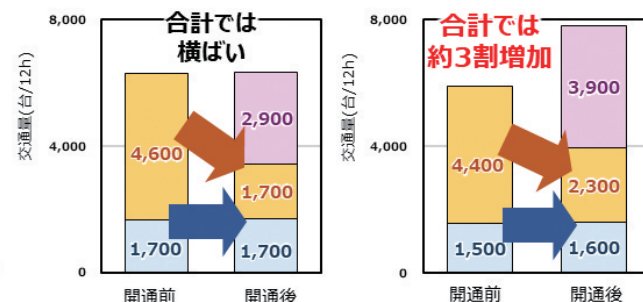
【12時間合計（休日）】



#### ■ B断面（三遠南信 東栄～鳳来峡間 国道151号・国道152号）

【12時間合計（平日）】

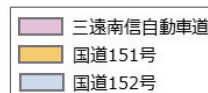
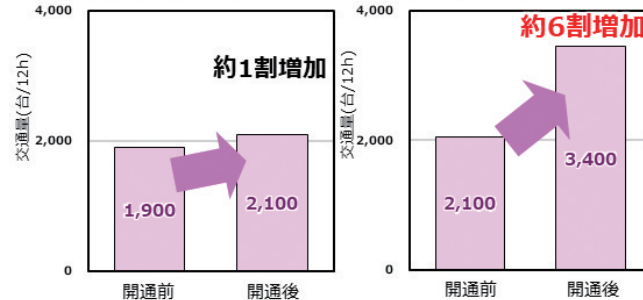
【12時間合計（休日）】



#### ■ C地点（三遠南信 鳳来峡IC以南）

【12時間合計（平日）】

【12時間合計（休日）】



【出典】A地点：佐久間トラカ交通量（7時～19時）  
B断面：交通量調査結果（7時～19時）  
C地点：三遠トラカ交通量（7時～19時）  
平日 開通前：R7.9.2(火)、開通後：R8.4.21(火)  
休日 開通前：R7.9.13(土)、開通後：R8.4.18(土)

開通後の交通量変化



## (2) 地域と都市間の移動時間短縮

佐久間道路・三遠道路の全線開通により、奥三河や佐久間地域と都市部とのアクセス性が向上し、移動時間が短縮しました。浜松市佐久間地域から浜松市街地までのアクセス時間では、未整備段階と比較し約25分短縮することが可能となり、生活利便性が向上し、地域間の連携強化につながるものと期待されます。

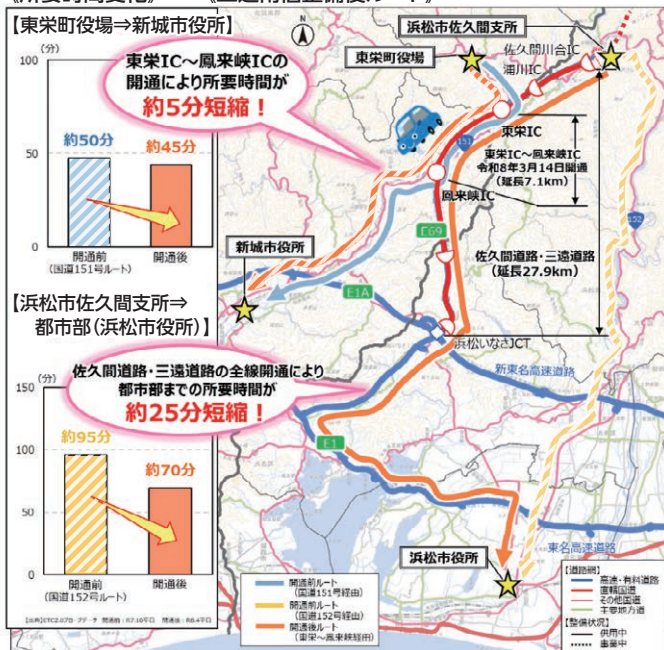
## (3) 災害に強い道路機能の確保

三遠南信地域は、事前通行規制区間の存在や豪雨災害等による通行止めが多く発生するなど、道路ネットワークが脆弱な地域です。令和5年6月に上陸した台風2号では、並行する国道151号、国道152号において、土砂災害による通行止めが発生し、交通に大きな影響を与えました。三遠南信自動車道の開通により、災害時にも機能する道路ネットワークが確保され、住民の安心・安全な日常生活の確保に寄与するものと期待されます。

## (4) 救急医療活動の支援

救急輸送においては、三遠南信自動車道が整備されたことより、これまで利用していたカーブが多く狭隘な箇所がある国道151号等を回避することが可能となりました。搬送時間の短縮や揺れの軽減につながり、傷病者の方にとってより負担の少ない救急搬送ができるようになるとの期待の声をいただいております。

## 《所要時間変化》 《三遠南信整備後ルート》



## 《災害等による通行止め状況》



## &lt;開通前&gt;

カーブが多いことによる揺れやブレーキ操作による搬送時の  
**安全性が課題**

## ■並行する国道151号



土砂崩れによる  
**長期通行止め**



【出典】愛知県道路建設課より受領

## &lt;開通後&gt;

走行性が良くなり、  
**患者への負担軽減！**  
冬期の路面凍結や、土砂崩れが発生した場合においても、  
**安全な搬送が可能！**





## (5) 産業連携の強化、観光振興と地域活性化

今後、三遠南信自動車道全線開通により、東三河・遠州地域・南信州地域間の移動時間が短縮され、地域間の産業連携の強化を支援します。特に、中部地域は航空宇宙産業が盛んであり、飯田市と浜松市周辺の航空宇宙産業企業の連携が強化され、新たな企業取引が創出されるなど産業クラスターの拡大に寄与するものと期待されます。

## 《航空宇宙産業の連携イメージ》



## 3. おわりに

佐久間道路・三遠道路は平成5年の事業化から約32年かけて、全線開通を迎えることができました。これも、地域の皆様ならびに関係者の皆様のご理解、ご協力、ご尽力の賜物です。この場をかりて、厚く御礼申し上げます。浜松河川国道事務所では、引き続き、三遠南信自動車道の事業を推進して参りますので、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

# 「一目でわかる伝わる工事メッセージ大賞」 愛知から発信！工事看板改革

国土交通省中部地方整備局長 森本 輝(7/31時点)

## 1. 「一目でわかる伝わる工事メッセージ大賞」の創設

インフラの整備は、周辺地域をはじめとする皆様のご理解とご協力なくして円滑に進めることはできません。また、将来にわたってインフラを維持していくうえでは、技術者や技能者の減少にともなう担い手の確保が大きな課題となっています。地域の暮らしを支えるインフラ整備や建設業の社会的意義について広く皆様にご理解いただき、担い手の確保につなげていくことが急務となっています。このような背景のもと、道路や河川等の工事現場に設置する工事看板を、地域の皆様との貴重なコミュニケーションの機会として捉え、慣習や先例にとらわれることなく工事の目的や意義、工事内容が一目で伝わる工夫を広く募集・表彰する全国に先駆け取り組みとして、愛知県建設業協会と中部地方整備局の共同による「一目でわかる伝わる工事メッセージ大賞」を創設しました。

## 2. 賞の決定

今回は、取り組みの第一歩として、中部地方整備局が発注した愛知県内の工事を対象に、工事メッセージを令和7年12月18日から令和8年4月20日まで募集しました。65の工事受注者から124作品ものご応募をいただき、この新たな取り組みに対する関心の高さが伺えました。

賞の決定は、幅広い視点と専門性を持つ4名の委員と筆者(中部地方整備局長 森本)で構成する選定委員会によって行いました。言葉のプロフェッショナルとして、中日新聞記者の小川涼子氏、ラジオナビゲーターの小林拓一郎氏、相山女学園大学非常勤講師の西田かおり氏にご参画いただき、また建設業界を牽引する立場から愛知県建設業協会の高柳充広会長に加わっていただくことで、それぞれの専門性を活かしながら作品を審査しました。

委員5名は、それぞれ審査基準(表)に基づいて事前に仮採点を行い、その結果を持ち寄って委員会で審議しました。応募作品はいずれも工事関係者の愛情や想いが詰まっている素晴らしいものばかりでした。委員の評価の視点はそれぞれに異なったことから、委員会では、作品のメッセージ性や社会的意義をどのような視点から評価をしたのか、評価するべきと考えているのかそれぞれの専門的見地から活発な議論が交わされました。

議論を踏まえて、各委員は評価の視点を修正したうえで採点を見直し、採点結果を5人分集計して、大賞1件、こども向け部門大賞1件、優秀賞3件、審査員特別賞5件を決定しました。

| 審査項目 | 配点 | 審査内容                                                                   |
|------|----|------------------------------------------------------------------------|
| 工事内容 | 5点 | 伝えよう・理解してもらおうとしている意志意欲をメッセージから(その情報量も含めて)、それを見る側(地域の皆様側、道路利用者等)が感じられるか |
| 工事目的 | 5点 | 伝えよう・理解してもらおうとしている意志意欲をメッセージから(その情報量も含めて)、それを見る側(地域の皆様側、道路利用者等)が感じられるか |

### ■審査基準



○自分が車を運転していて、瞬間的にイメージできるかを大切にしました。  
○知りたい欲求につながるものや想いや背景・歴史が伝わってくるものを評価した。



○通過した一瞬でわかるものを評価した。情報が入りすぎているものは伝わりづらい。多言語表記など、時流にあった提案と思う。

○「正確さ」、「端的に伝わること」、「未来への期待感」を評価した。  
○あきらかにこども向けかな、という作品もあったが、端的でわかりやすい工夫があった。



○夢やキャッチーさのほか、固有名詞があるとよいと思った。  
○胸を張って仕事ができる業界を目指して、より前向きな表現を評価した。



### ■各委員からの意見(一部ご紹介)



### 3. 作品たちから伝わるメッセージ

5月29日、ウィル愛知で表彰式を開催し、表彰式のなかで各賞を発表しました。受賞者の皆さんには、喜びの声や、作品に込めた想いをスピーチしていただきました。「大賞」を受賞した中日建設(株)の加藤さんからは、ご自身が現場管理するなかで日々感じる工事に対する地域の不満を思い、「新しい橋にバトンタッチ 熱田伝馬橋 解体中」に込められた建設業のネガティブイメージを払拭したい、今やっていることを知ってもらいたい、見てもらいたい、という強いメッセージを感じました。また、「こども向け部門大賞」を受賞した矢作建設工業(株)の杉山さんからは、お生まれになったばかりのお子様との将来をイメージされた作品とのことで、ご自身の選択した職業を選んでもらいたいという期待や、将来の担い手確保に対する想いが伝わってくる作品でした。



○なぜ解体する?をうまく伝えたいと思った。  
○「バトンタッチ」はたまたま見た、子供の絵本が閃いた。  
○若い人に、わかってもらいたい、やってみたいと感じてほしい!  
(「大賞」中日建設(株) 加藤さん)



○新しい担い手の子供達に伝えたいと思った。  
○道行く親子の会話が広がることを想像した。  
○子供も経験する、「けが」という表現がわかりやすいと考えた。  
(「こども向け部門大賞」矢作建設工業(株) 杉山さん)

#### ■受賞者コメント

### 4. 建設業の明るい未来づくり

昨年12月に行われた全国青年会議のピッチコンテストでは、優勝特典が廣瀬技監との対談でした。これに習い、「大賞」の副賞として、中日建設(株)代表取締役社長の高木さんと作品考案者の加藤さん、筆者の3名が、6月16日に「建設業の明るい未来づくり」をテーマに対談しました。高木さんから、「子供たちが将来なりたい職業No.1を目指す産業へと進化すること」と提言をいただきました。また、加藤さんからは、「日々の作業が暮らしを支えている。見えづらい部分の現場の努力にも着目してほしい。」とお話いただきました。筆者からは、「カッコイイ、やってみたい、と思ってもらえないことが最大の課題。」「地域の方々に見られていることをあらためて認識し、現場のあらゆる「人」と「物」が変わってゆく必要がある」と意見を述べました。

「子供たちが将来なりたい職業No.1」を目指して、建設業のカッコいいイメージづくりに取り組んでいくことを双方確認し、対談を結びました。大変有意義な時間となりました。



#### ■大賞受賞者と対談

### 6. 今後の展望

地域の方々にとって建設業は身近な存在で、意図せずとも工事現場を目にする機会が多くあることから、工事現場の印象がそのまま建設業のイメージにつながっています。このため、建設業のイメージ改善には工事現場の取り組みが不可欠です。今回の工事メッセージ大賞は、その第一歩にすぎません。今後も受発注者の垣根を越えた取組を進め、「どんどん見てください」と胸を張って言えるような現場にしていければと思っています。本取組に関しては、多くの報道機関に取材していただき誠に感謝しています。この取組が広く伝わり、工事に対する理解や共感を得るためのコミュニケーションが、受発注者の垣根を越えて多くの工事現場へと広がっていくことを期待しています。

審査のようすや、  
すべての作品をご覧いただけます  
ぜひ、ご覧ください!



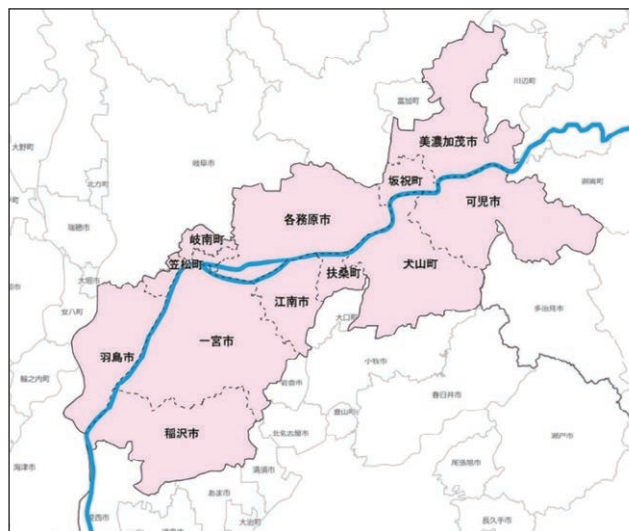
# 木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり サイクリングロードのネットワーク化による沿川地域の連携

国土交通省中部地方整備局 木曽川上流河川事務所

## 1. 木曽川中流域の概要

木曽川中流域は、岐阜県および愛知県にまたがる広域的な地域であり、羽島市、美濃加茂市、各務原市、可児市、岐南町、笠松町、坂祝町、一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、扶桑町の12市町が沿川に位置している。これらの地域は、木曽川の豊かな自然環境や歴史文化資源を有しており、河川空間を活用した地域づくりに適した条件を備えている。人口は約113万人、面積は約644平方キロメートルに及び、都市部と自然環境が共存する地域である。

木曽川中流域では一宮市や美濃加茂市、可児市でかわまちづくりの拠点が整備されるとともに、広域ネットワークの形成を目指した自転車道等の整備、運営、管理及び活用の更なる充実を図るための「木曽川上流域自転車道整備活用推進会議」にも取り組み、サイクリングコースなどの整備等も行ってきた。さらに、岐阜県では今後、木曽川中流域の自治体、観光関係者らと連携し木曽川流域の新たな観光資源のブランド化に取り組む方針であるなど、木曽川をまちづくりや地域活性化の主要な資源として活用しようとする機運が高まっている。



木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会  
沿川市町の位置図



既存の整備済のサイクリングロード  
(愛知県一宮市 尾濃大橋付近)

## 2. 木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくりの概要

「かわまちづくり」は、河川(せせらぎや美しい景観、豊かな自然など)とそれに接続するまちを対象に、地域の景観、歴史、文化、観光基盤などの地域資源や住民・事業者の創意に富んだ知恵を活かし、河川管理者、市町村、民間事業者、地元住民が連携して行うまちづくりの取り組みである。

木曽川中流域の沿川12市町、岐阜県、愛知県及び河川管理者である中部地方整備局木曽川上流河川事務所が連携し、既存の資源を最大限に活用した流域の魅力の向上、木曽川を基軸としたヒト・マチ・オモイを自転車で繋ぐネットワーク化を図り、安全・安心で賑わいのある豊かな川のある暮らしを実現することを目的に「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会」を令和7年2月25日に設立した。

中部地方整備局木曽川上流河川事務所は、協議会の事務局として、協議会の運営や計画の策定、情報共有等を行っている。関係市町と国とが協働し、河川空間とまち空間が融合した空間形成を目指すための取り組みを「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり計画」として策定し、令和7年8月1日に登録された。

なお、一宮市富田山公園の官民連携施設の整備と連携した水辺拠点を整備する「一宮西部地区かわまちづくり計



画」、国宝犬山城や木曾川鵜飼、名勝木曾川等の歴史・自然資源を活かし、賑わいのある城下町からの回遊性を促す歩行・滞在空間などを整備する「犬山市かわまちづくり計画」も同日に登録された。3計画ともその翌年の令和8年度から新規事業として着手し、概ね5か年で整備する予定である。



木曾川中流域自転車繋ぐかわまちづくり協議会の発足

### 3. 木曾川中流域自転車繋ぐかわまちづくりの整備内容

ハード施策については、中部地方整備局木曾川上流河川事務所において坂路を整備し、河川空間へのアクセス向上を図る。

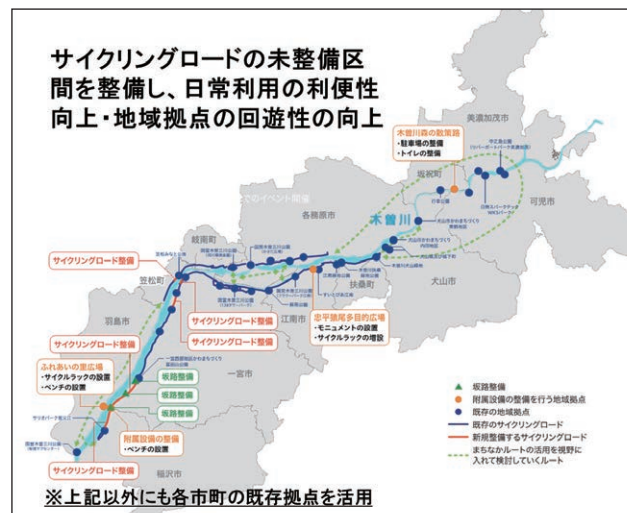
また、沿川市町ではサイクリングロードの延伸に加え、休憩施設としてベンチやトイレ、駐車を整備する予定であり、サイクリストや歩行者が快適に利用できる環境づくりを進めていく。さらに、案内サインを適切に配置することで、ルートへの視認性や安全性を高めるとともに、地域資源への誘導を促進する。

ソフト施策については、官民連携によるイベントの開催や、SNS・Webを活用した情報発信により、地域の魅力を広く発信し、来訪者の増加を目指すとともに、レンタサイクルの導入や拠点施設との連携を進めることで利用者の利便性向上を図り、地域経済への波及効果の創出にもつなげていく考えである。

安全対策については、歩行者と自転車の通行区分を明確化するとともに、路面標示による走行誘導や危険箇所での注意喚起を実施し、事故防止に努める。

なお、サイクリングロード整備や賑わい創出、イベント支援について、河川内においては、中部地方整備局木曾川上流河川事務所が事務局を務める「木曾川中流域自転車繋ぐかわまちづくり協議会」を中心に、まちなかにおいては、沿川市町及び岐阜県、愛知県が検討を進めている。

今後は、各市町、県、国がそれぞれの強みを活かしながら連携し、河川内ルートとまちなかルートを有機的に接続することで、地域拠点へのアクセス向上と一体的なサイクリングネットワークの形成を目指していく。



木曾川中流域自転車繋ぐかわまちづくりにおける整備予定箇所



サイクルラックの整備イメージ



サイクリングロードの整備イメージ

### 4. おわりに

「木曾川中流域自転車繋ぐかわまちづくり」は、地域資源を活かした広域的なネットワーク形成を通じて、地域の魅力向上と観光振興を図る重要な取り組みである。岐阜県・愛知県にまたがる木曾川沿川市町が連携し、サイクリングルートをつなぐことは大きな意義がある。引き続き、各市町、県、国が連携し、サイクリングロードの整備を進めていく。

今後は、地域住民や民間事業者との連携をさらに強化し、本取り組みの実現に向けた取組を進めていくことが求められる。沿川12市町、岐阜県及び愛知県と理念を共有しながら、それぞれの地域資源や個性を活かした魅力的な水辺空間の創出に向け、官民一体となったかわまちづくりを推進していく所存である。



# 【令和8年度新規事業化箇所】 「国道21号 宮浦拡幅事業」について

国土交通省中部地方整備局 岐阜国道事務所

## 1. 宮浦拡幅の概要

国道21号は、岐阜県瑞浪市から滋賀県米原市に至る延長97kmの主要幹線道路であり、このうち、国道21号宮浦拡幅は、岐阜県美濃加茂市御門町から岐阜県美濃加茂市田島町に至る延長1.4kmの拡幅事業です。

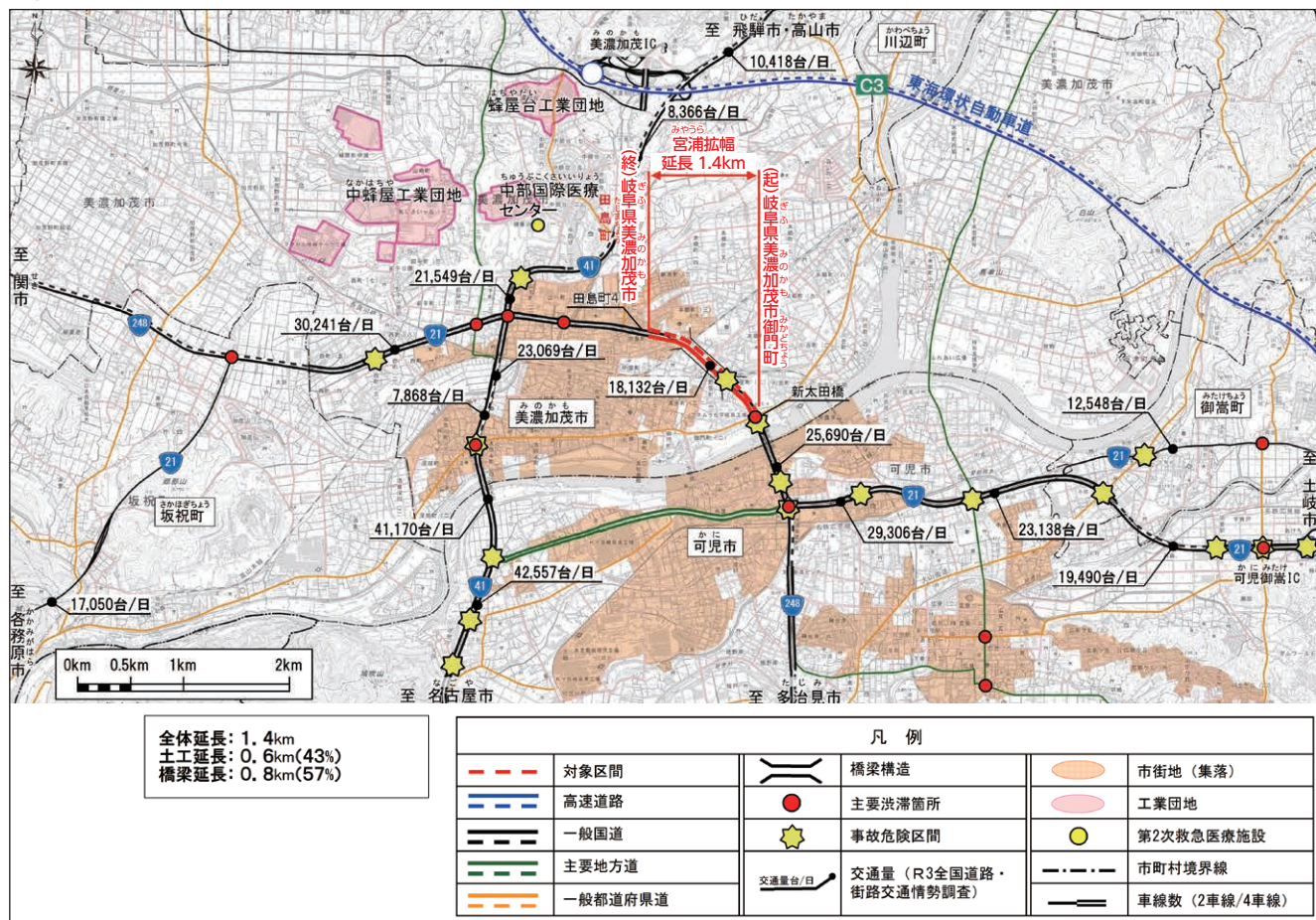
本事業は、国道21号の交通容量の確保により、国道21号の交通渋滞の緩和を図り、沿線地域の産業活動や日常生活を支援することを目的としています。また、バイパス機能の強化により、市街地への通過交通の抜け道利用を抑制するなど、市街地の交通環境を改善することを目的としています。

### 【整備効果】

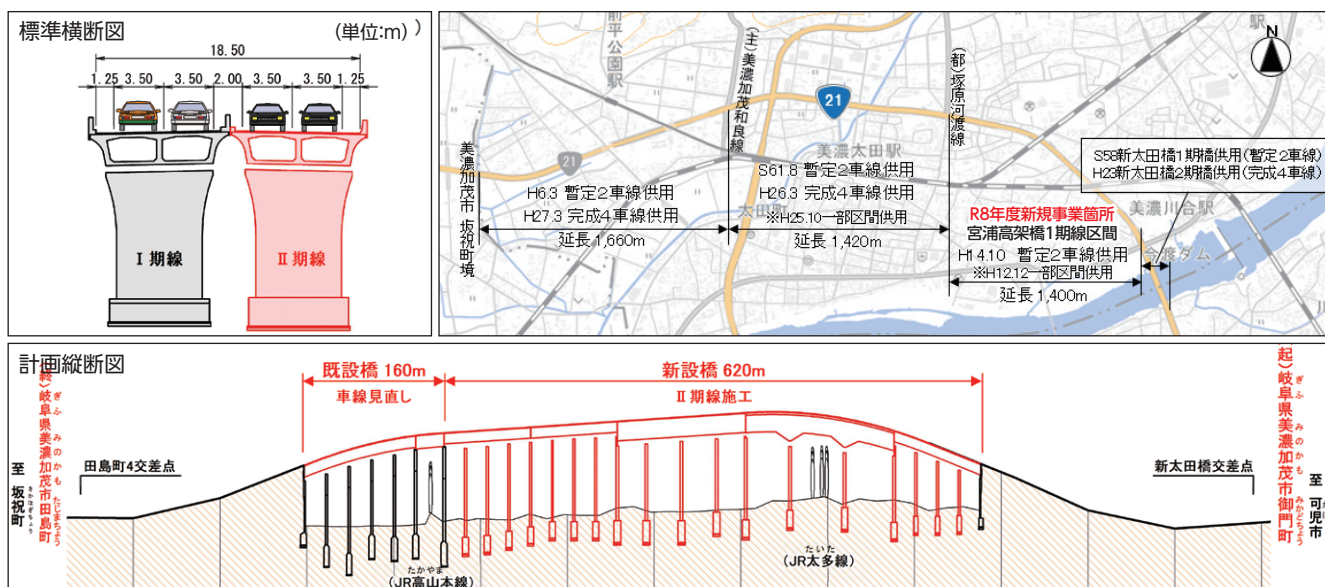
- ① ボトルネック解消による物流・生活交通の円滑化
- ② バイパス機能強化による市街地の交通環境改善
- ③ 地域の産業活動を支援



### ■位置図





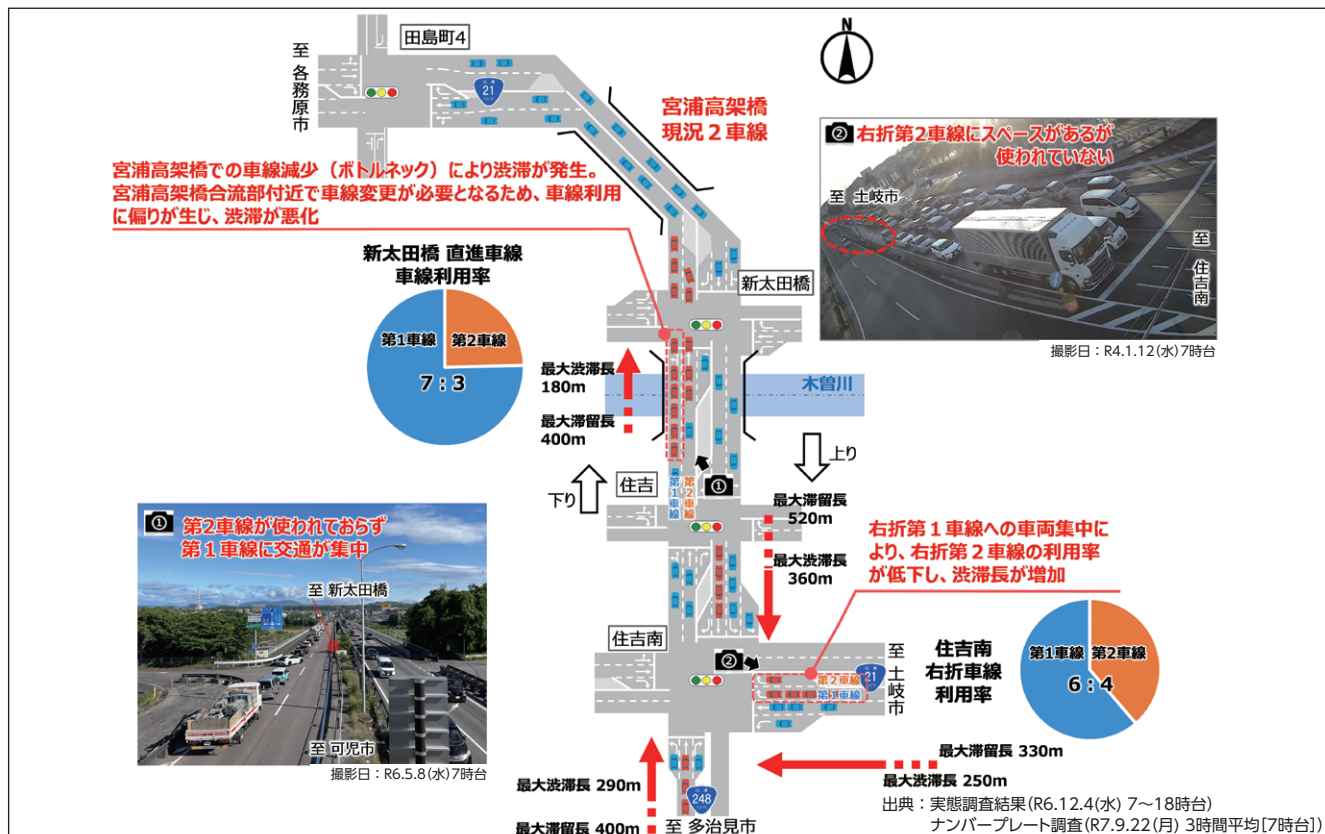


## 2. 当該区間の渋滞発生状況

住吉南交差点から各務原市方面に向かう利用書のうち、約7割が第1車線を利用しており、宮浦高架橋の車線減少箇所  
で渋滞が発生しています。車線利用の偏りは住吉南交差点まで影響を及ぼし、土岐市方面から各務原市方面に向かう住  
吉南交差点の右折車線の渋滞を悪化させる要因となっています。

各交差点で利用車線の偏りによる渋滞が生じており新太田橋交差点を起点として国道21号各務原市方面の渋滞は新太田橋から住吉南交差点までの一連の交通渋滞となっています。

### ■当該区間の交通課題・特性(田島町4～住吉南交差点)



### 3. 当事業がもたらす整備効果

宮浦拡幅の整備により以下の効果が期待できます。

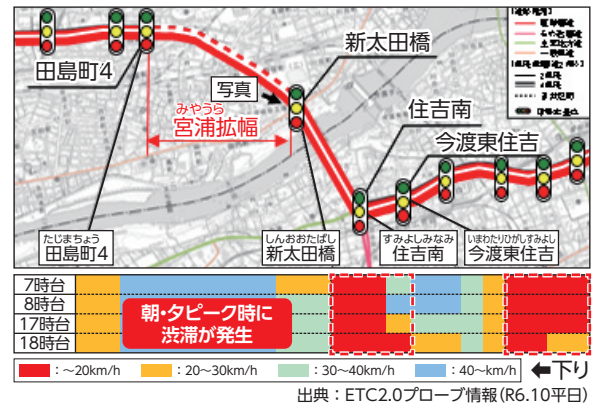
#### ①ボトルネック解消による物流・生活交通の円滑化

当該区間は2車線であり、交通容量の不足により新太田橋交差点を起点として国道21号下り線で朝夕ピーク時を中心に渋滞が発生しています。

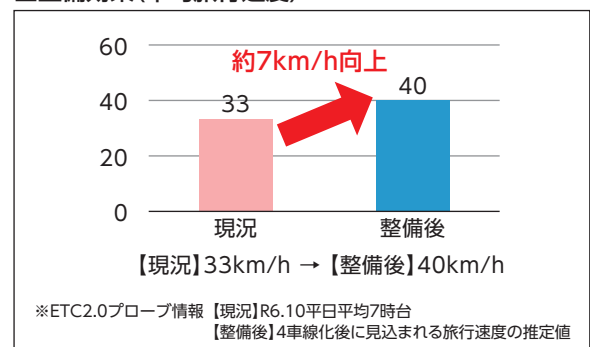
交通容量の確保により、交通渋滞の緩和が期待できます。



#### ■新太田橋交差点南側流入部の渋滞状況



#### ■整備効果（平均旅行速度）



#### ②バイパス機能強化による市街地の交通環境改善

当該区間は渋滞のため並行路線と同等以下の所要時間となり、バイパス機能を十分に発揮できず、美濃加茂・可児市街地に交通が流入しています。

国道21号の適正な利用が図られることで、細街路の抜け道利用が減り、交通の安全性が向上することが期待できます。

#### 美濃加茂・可児市街地の

死傷事故件数

約7%減少

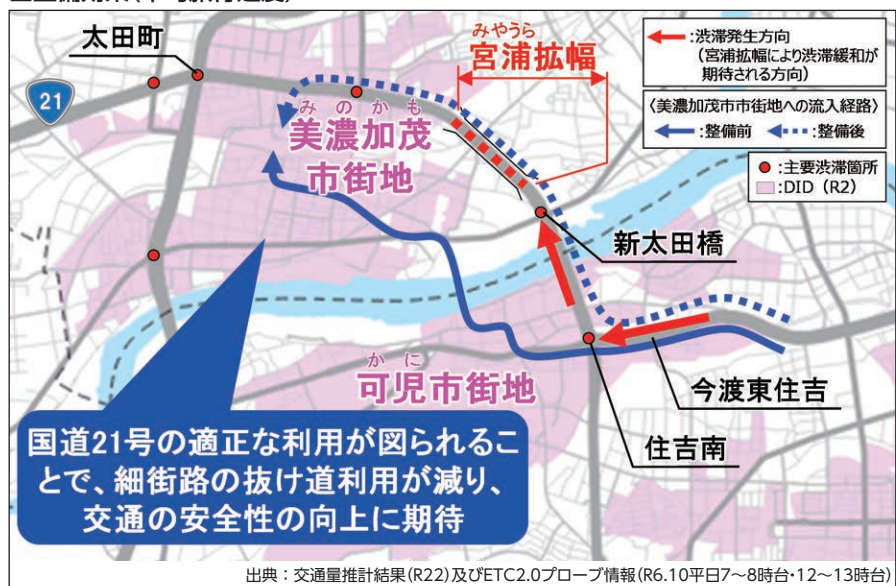
【現況】14件/年



【整備後】13件/年

出典：ITARDAデータ（R2～R5）  
分析対象：美濃加茂市・可児市街地内道路  
算出式：現況事故件数×{1+（整備前走行台キロ  
－整備後走行台キロ）÷整備後走行台キロ}  
÷整備前走行台キロ  
走行台キロデータ：R22将来交通量推計データ

#### ■整備効果（平均旅行速度）





### ③地域の産業活動を支援

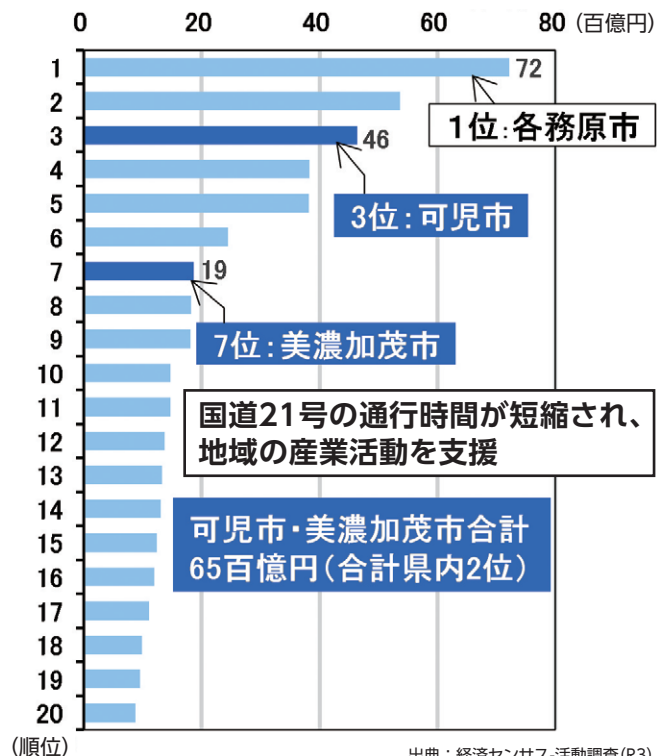
美濃加茂市・可児市の製造品出荷額は岐阜県内で7位、3位と多く、産業が盛んな都市で、両都市の結びつきも強いです。しかし、製品輸送等における速達性の確保が課題となっています。

国道21号の通過にかかる時間が短縮されることで、地域の産業活動を支援することが期待できます。

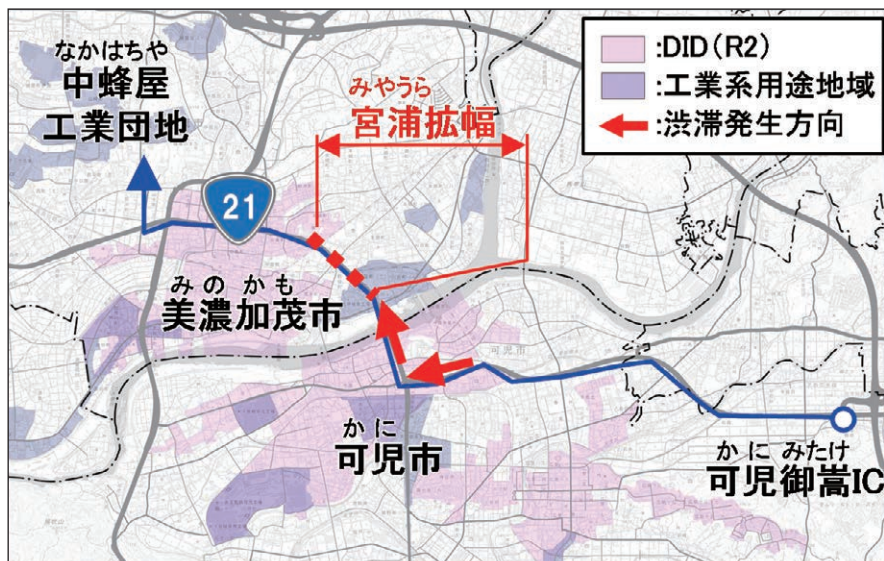
可児御嵩IC～中蜂屋工業団地までの  
所要時間 約2分短縮  
【現況】約24分 ⇒ 【整備後】約22分

出典：ETC2.0プローブ情報  
【現況】R6.10平日ピーク時7時台  
【整備後】4車線化後に見込まれる旅行時間の推定値

■岐阜県内市町村製造品出荷額等ランキング



■美濃加茂・加茂市街地・工業団地の分布状況



## 4. 最後に

令和8年度は、測量および道路予備設計の実施を予定しています。

宮浦拡幅がもたらす整備効果について地域からの期待も大きく、早期完成を目指して、関係機関と連携・協力しながら事業を推進して参ります。

## 企画部会

### 令和8年度 建設機械優良技術員表彰

月 日：5月14日(木)

受賞者：優良建設機械運転員2名  
優良建設機械整備員2名

## 広報部会

### 中部支部ニュース第45号

8月に発刊

## 災害対策部会

### 令和8年度 天竜川下流連合総合水防演習

月 日：5月31日(日)

会場：天竜川一級河川天竜川右岸

かささぎ大橋上流河川敷

演習参加会社：(株)アミューズワンセルフ

展示参加会社：(株)ダイワテック、(株)アミューズワンセルフ



片山財務大臣 視察状況



水防演習展示状況  
(ダイワテック)



水防演習参加状況  
(ハイブリッドドローン)

## DX・施工部会

### 建設ICT出前授業

①月 日：6月30日(火)

場所：中部インフラDXセンター  
(中部技術事務所構内)

受講者：名城大学理工学部  
社会基盤デザイン工学科4年生40名

講師：(株)シーティーエス  
甲信営業部長 中山 俊彦 氏

②月 日：7月1日(水)

場所：岐阜工業高等専門学校

受講者：環境都市工学科5年生40名

講師：(株)シーティーエス  
甲信営業部長 中山 俊彦 氏

③月 日：7月13日(水)

場所：三重大学教育課

受講者：教育課3名

講師：(株)シーティーエス  
甲信営業部長 中山 俊彦 氏

### 建設機械施工管理技術検定試験(筆記)

月 日：6月15日(日)

会場：愛知学院大学日進キャンパス

受験者：1級313名、2級557名

### 建設機械整備技能検定試験

月 日：6月29日(月)～7月2日(木)

会場：愛知県三河高等技術専門学校

受験者：1級38名、2級55名



## 令和8年度 各 部 会 の 行 事 予 定

|                                          | 春<br>(4月～6月)                                                    | 夏<br>(7月～9月)        | 秋<br>(10月～12月)              | 冬<br>(1月～3月) | 備 考            |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------------|--------------|----------------|
| <b>企画部会</b>                              |                                                                 |                     |                             |              |                |
| 建設機械優良技術員表彰                              | 5/14(木)<br>(支部総会時)                                              |                     |                             |              |                |
| <b>広報部会</b>                              |                                                                 |                     |                             |              |                |
| 支部ニュース                                   |                                                                 | 8月上旬                |                             |              |                |
| 支部だより                                    |                                                                 |                     | 12月下旬                       |              |                |
| 工事現場見学会                                  |                                                                 |                     | 10月上旬                       |              |                |
| 建設施工研修会(映画会)                             |                                                                 | 9/30(水)             |                             |              |                |
| 新機種・新工法発表会                               |                                                                 |                     |                             |              | 会員会社の申込により随時開催 |
| <b>技術・調査部会</b>                           |                                                                 |                     |                             |              |                |
| 講演会                                      | 5/14(木)<br>(支部総会時)                                              |                     |                             |              |                |
| 技術講演・発表会                                 |                                                                 |                     | 11/17(火)                    |              |                |
| ICTを活用した建設技術出前授業                         |                                                                 |                     |                             |              | 申込により随時開催      |
| ICTを活用した建設技術出前講習会                        |                                                                 |                     |                             |              | 〃              |
| <b>DX・施工部会</b>                           |                                                                 |                     |                             |              |                |
| 建設機械施工管理技術検定試験(筆記)                       | 6/21(日)                                                         |                     |                             |              | 1級・2級          |
| 建設機械施工管理技術検定試験(実技)                       |                                                                 | 8/28(金)<br>～8/30(日) |                             |              | 1級・2級          |
| 建設機械整備技能検定実技試験                           | 6/29(月)<br>～7/2(木)                                              |                     |                             |              | 1級・2級          |
| 道路除雪講習会                                  |                                                                 |                     | 10/30(金):高山<br>11/13(金):名古屋 |              |                |
| <b>災害対策部会</b>                            |                                                                 |                     |                             |              |                |
| 愛知県ブロック<br>災害対策用機械操作訓練                   | 6/5(金)<br>6/11(木)・6/12(金)<br>6/18(木)・6/19(金)<br>7/23(木)・7/24(金) |                     |                             |              |                |
| 災害又は事故における中部地方整備局所管<br>施設等の応急対策の支援に関する協定 |                                                                 |                     |                             |              | 災害応急支援随時       |
| 広域災害等における災害対策用機械<br>の運転支援に関する協定          |                                                                 |                     |                             |              | 災害応急支援随時       |

## 発刊図書一覧

(令和8年8月現在)

| 発行年月    | 図書名                                      | 一般価格(税込) | 会員価格(税込) | 送料(税込) |
|---------|------------------------------------------|----------|----------|--------|
| R8年6月   | 大口径岩盤削孔工法の積算 令和8年度版                      | 7,700    | 6,545    | 880    |
| R8年5月   | よくわかる建設機械と損料 2026                        | 8,140    | 6,919    | 880    |
| R8年5月   | 橋梁架設工事の積算 令和8年度版                         | 13,200   | 11,220   | 1,100  |
| R8年4月   | 令和8年度版 建設機械等損料表                          | 11,000   | 9,350    | 880    |
| R7年5月   | 橋梁架設工事の積算 令和7年度版                         | 12,100   | 10,285   | 1,100  |
| R7年4月   | 令和7年度版 建設機械等損料表                          | 9,680    | 8,228    | 880    |
| R7年3月   | 日本建設機械要覧 2025年版                          | 53,900   | 45,100   | 1,100  |
| R6年12月  | 建設機械施工ハンドブック(改訂5版)                       | 13,200   | 11,220   | 880    |
| R6年5月   | 大口径岩盤削孔工法の積算 令和6年度版                      | 6,600    | 5,610    | 880    |
| R6年5月   | 橋梁架設工事の積算 令和6年度版                         | 12,100   | 10,285   | 1,100  |
| R6年5月   | よくわかる建設機械と損料2024                         | 7,260    | 6,171    | 880    |
| R5年10月  | 道路除雪施工の手引(第17版)                          | 4,950    | 3,960    | 880    |
| R3年1月   | 情報化施工の基礎 ～i-Constructonの普及に向けて～          | 2,200    | 1,870    | 880    |
| H29年4月  | ICTを活用した建設技術(情報化施工)                      | 1,320    | 1,122    | 880    |
| H26年3月  | 情報化施工デジタルガイドブック 【DVD版】                   | 2,200    | 1,980    | 880    |
| H25年6月  | 機械除草安全作業の手引き                             | 990      | 880      | 880    |
| H22年7月  | 情報化施工の実務                                 | 2,200    | 1,870    | 880    |
| H21年11月 | 情報化施工ガイドブック2009                          | 2,420    | 2,178    | 880    |
| H19年12月 | 除雪機械技術ハンドブック                             | 3,300    | 2,970    | 880    |
| H18年2月  | 建設機械施工安全技術指針・指針本文とその解説                   | 3,520    | 2,992    | 880    |
| H15年7月  | 建設施工における地球温暖化対策の手引き                      | 1,650    | 1,485    | 880    |
| H15年6月  | 道路機械設備 遠隔操作監視技術マニュアル(案)                  | 1,980    | 1,782    | 880    |
| H15年6月  | 機械設備点検整備共通仕様書(案)<br>機械設備点検整備特記仕様書作成要領(案) | 1,980    | 1,782    | 880    |
| H15年6月  | 地球温暖化対策 省エネ運転マニュアル                       | 550      | 495      | 880    |
| H13年2月  | 建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック(第3版)                 | 6,600    | 5,940    | 880    |
| H12年3月  | 移動式クレーン、杭打機等の支持地盤養生マニュアル(第2版)            | 2,750    | 2,475    | 880    |
| H11年10月 | 機械工事施工ハンドブック 平成11年度版                     | 8,360    | 7,524    | 880    |
| H11年4月  | 建設機械図鑑                                   | 2,750    | 2,475    | 880    |
| H6年8月   | ジオスペースの開発と建設機械                           | 8,470    | 7,623    | 880    |
| H6年4月   | 建設作業振動対策マニュアル                            | 6,380    | 5,742    | 880    |
|         | 建設機械履歴簿                                  | 440      | 396      | 880    |

※令和8年4月1日から、送料の価格を変更しております。

(単位:円)

※送料は複数冊の場合変わります。

問い合わせ先

(一社)日本建設機械施工協会 中部支部

名古屋市中区錦3-7-9 太陽生命名古屋第2ビル 7階  
TEL(052)962-2394 FAX(052)962-2478  
<https://www.jcma-c.jp/>



## 会員名簿(144社)

令和8年8月現在

## 製造業(30社)

|                    |                      |                        |
|--------------------|----------------------|------------------------|
| (株)IHIインフラスクエア中部支店 | (株)篠田製作所             | 日本キャタピラー(同)            |
| (株)アミューズワンセルフ      | ゼニヤ海洋サービス(株)大阪営業所    | 日本車輛製造(株)              |
| 宇野重工(株)名古屋営業所      | ダイハツインフィニアース(株)名古屋支店 | 阪神動力機械(株)              |
| (株)荏原製作所中部支社       | 大和機工(株)              | 範多機械(株)                |
| カナデビア(株)中部支社       | (株)鶴見製作所中部支店         | (株)日立インダストリアルプロダクツ中部支店 |
| (株)共栄社             | (株)電業社機械製作所名古屋支店     | 日立建機日本(株)中部支社          |
| (株)クボタ中部支社         | (株)西島製作所名古屋支店        | 豊国工業(株)中部支店            |
| コベルコ建機日本(株)中部支社    | 仲山鉄工(株)              | 豊和工業(株)                |
| 佐藤鉄工(株)名古屋営業所      | 西田鉄工(株)名古屋営業所        | (株)丸島アクアシステム名古屋営業所     |
| (株)三協メカニク          | 日東河川工業(株)東海営業所       | (株)丸徳鉄工                |

## 建設業(87社)

|                 |                      |                       |
|-----------------|----------------------|-----------------------|
| アイトム建設(株)       | (株)佐藤渡辺中部支店          | 西松建設(株)中部支社           |
| あおみ建設(株)名古屋支店   | 山旺建設(株)              | (株)NIPPO中部支店          |
| (株)秋吉組          | サンリツ工業(株)            | 日本道路(株)中部支店           |
| (株)新井組名古屋支店     | (株)施設技術研究所           | 日本ハウエィ・サービス(株)名古屋支店   |
| (株)安藤・間名古屋支店    | シブキヤ建設(株)            | 日本ロード・メンテナンス(株)名古屋営業所 |
| 石橋建設興業(株)       | 清水建設(株)名古屋支店         | (株)野田クレーン             |
| (株)伊藤工務店        | (株)新栄重機              | (株)ノバック名古屋支店          |
| 荏原商事(株)中部支社     | 鈴中工業(株)              | (株)ヒメノ                |
| 大林道路(株)中部支店     | 西濃建設(株)              | 福井鐵工(株)               |
| (株)オカシズ         | 大旺新洋(株)名古屋土木支店       | 福田道路(株)中部支店           |
| 岡田建設(株)         | 太啓建設(株)              | 藤城建設(株)               |
| (株)奥村組名古屋支店     | 大成建設(株)中部支店          | (株)フジタ名古屋支店           |
| 奥村組土木興業(株)名古屋支店 | 大日本土木(株)             | 富士ロードサービス(株)          |
| (株)ガイアート中部支店    | 大有建設(株)              | (株)不動テトラ中部支店          |
| 鹿島建設(株)中部支店     | 高田建設(株)              | 前田道路(株)中部支店           |
| 鹿島道路(株)中部支店     | 中日建設(株)              | 勝建設(株)                |
| (株)加藤建設         | 中部土木(株)              | 水谷建設(株)               |
| 加藤建設(株)         | 中部ロード・メンテナンス(株)      | 水野建設(株)               |
| 可児建設(株)         | (株)テクアノーツ中部事業所       | みらい建設工業(株)中部支店        |
| 神野産業(株)         | 東亜建設工業(株)名古屋支店       | 村本建設(株)名古屋支店          |
| (株)川瀬組          | 東亜道路工業(株)中部支社        | 名工建設(株)               |
| (株)キクテック        | 東急建設(株)名古屋支店         | 矢作建設工業(株)             |
| 岐建(株)           | 東洋建設(株)名古屋支店         | ヤマダインフラテクノス(株)        |
| 木村建設(株)         | (株)所組                | (株)山辰組                |
| (株)國井組          | 徳倉建設(株)              | (株)ヤマナカ電気             |
| (株)熊谷組名古屋支店     | 戸田建設(株)名古屋支店         | 吉川建設(株)名古屋支店          |
| (株)鴻池組名古屋支店     | 長坂建設興業(株)            | 若築建設(株)名古屋支店          |
| 五洋建設(株)名古屋支店    | 中村建設(株)              | (株)渡邊組                |
| (株)近藤組          | 名古屋電機工業(株)社会インフラ事業本部 |                       |
| 佐藤工業(株)名古屋支店    | 営業本部 中部支社            |                       |

## 商事会社(6社)

|                             |                                       |                                   |
|-----------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 英和(株)名古屋営業所<br>(株)NTジオテック中部 | コマツカスタマーサポート(株)中部カンパニー<br>(株)千代田組中部支店 | 福井コンピュータ(株)中部営業所<br>(株)ポラリスエクスポート |
|-----------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|

## 機械整備業(4社)

|                              |                             |                  |
|------------------------------|-----------------------------|------------------|
| 住友建機販売(株)<br>住友建機教習所愛知教習センター | (株)整備工場東海葵工場<br>ブルドーザー整備(株) | マルマテクニカ(株)名古屋事業所 |
|------------------------------|-----------------------------|------------------|

## コンサルタント業(3社)

|                        |                   |           |
|------------------------|-------------------|-----------|
| (株)アサノ大成基礎エンジニアリング中部支社 | エースコンサルタンツ(株)中部支店 | (株)中部テクノス |
|------------------------|-------------------|-----------|

## レンタル業(6社)

|                            |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| (株)アクティオ中日本支社<br>(株)ダイワテック | 瀧富工業(株)<br>西尾レントオール(株)中部支店 | (株)前田製作所名古屋支店<br>(株)丸建サービス |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|

## その他(8社)

|                                      |                                                      |                                      |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| (株)内田商会<br>(株)建設システム<br>サイテックジャパン(株) | (株)シーティーエス東海営業部<br>(株)東京建設コンサルタント中部支社<br>日本工営都市空間(株) | (一社)日本鋼構造物循環式プラスト技術協会<br>リーグルジャパン(株) |
|--------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------|

## 編 集 後 記

今年は、年明けから2月のミラノ・コルティナ冬季オリンピック、3月にはワールド・ベースボール・クラシック、そして6月から約1か月余のFIFAワールドカップ2026が開催され熱い夜、眠れない夜をお過ごしになったことと思います。

結果はともかく世界が注目した半年でした。

第45号中部支部ニュースも旬の熱いニュースを皆様にお届けするよう心がけております。

行政ニュースとしては、まずはインフラDXの中部の取り組みについての紹介、次に災害関連として、令和8年度天竜川下流で取り組まれた連合総合水防演習の内容について、三つめは、令和8年3月14日開通した三遠南信自動車道「東栄IC～鳳来峡IC」の話です。

トピックスとしては、冒頭にインフラ整備を円滑に進めるための周辺地域の理解や協力を得るための取り組みとして「一目でわかる伝わる工事メッセージ大賞」についての紹介を国土交通省 中部地方整備局長(7/31時点) 森本 輝 氏に執筆いただきました。

二つ目は、木曽川中流域の文化や人、賑わいを自転車で繋ぐ「かわまちづくり」の話、三つめは国道21号宮浦拡幅事業の必要性とその効果について紹介させていただきました。

それぞれの事業へのこだわりをご理解いただけたでしょうか。

アツイといえば、今年から気象庁は40℃以上を「酷暑日」と呼ぶことになりましたが、7月から連日酷暑日が続いております。  
気温ごとの呼び方

- ・夏日(なつび) : 最高気温25℃以上
- ・真夏日(まなつび) : 最高気温30℃以上
- ・猛暑日(もうしょび) : 最高気温35℃以上
- ・酷暑日(こくしょび) : 最高気温40℃以上

9月からは、「第20回アジア競技大会」(愛知・名古屋)が開催されます。

今年の夏も昨年以上に「ヤバイ」暑さになりそうですが、アツイ応援で大会が成功することを祈ります。

また、熱中症に気を付けて工事を進捗いただきますことをお祈ります。皆様、ご安全に！

編集部一同